

平成29年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
1 教員の専門性向上と個別の指導計画を具現化した授業の改善・充実の推進	① 学部を超えて授業を参観し、参観者によるコメントをもとに小・中・高が連携した授業改善に取り組む。	教務課	授業を参観した回数が A：7回以上 B：6回 C：4～5回 D：3回以下	九月までに授業を参観した回数の合計が40回で、1人あたり、平均2回であった。	9月末現在の一人2回のペースでは、最終評価でB評価は達成できない。昨年度、2学期は学校行事が多く、3学期に参観が集中した傾向がある。今年度は、2学期から学校行事等のない時期に授業参観の呼びかけをして、最終評価ではB評価を目指す。	C
	② 教員の専門性向上のための校内の事例検討会や研修会を企画する。	キャリア支援課 自立支援	実施した校内研修の回数が A：12回以上 B：9回～11回 C：6回～8回 D：6回以下	実施した校内研修会の回数が8回であった。	4月に児童生徒理解の研修会として4回、研修対象を学務員・バス介助員・バス運転手・給食介助員まで広げた分校会議を1回、夏季休業中に事例検討会と2回目の分校会議、珠洲リハを招いた研修会で現在のところ8回開催し、関係する児童生徒の対応のための研修を行っている。今後も引き続き研修会を行い、最終評価ではA評価を目指す。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・学部を越えた授業の参観だけでなく、隣接する小中学校の授業も参観して授業改善に取り組んで欲しい。 ・学校職員全員での研修会は評価できる。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観ウィークを設定して取り組む。 				

重点目標	具体的取組	担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
2 キャリア教育の推進と進路指導の充実	① 社会とのつながりを意識できるように、外部講師や地域資源を活用した授業を計画し実践する。	キャリア支援課 進路指導	各学部で協議した授業を A：授業を15回以上計画・実践した B：授業を13回計画・実践した C：授業を8回計画・実践した D：授業を5回以下しか計画・実践できなかった。	各学部で協議した授業を10回、計画・実践した。	9月末現在、社会とのつながりを意識した授業として、中学部は分校喫茶を7回実施（述べ来客者数174名）し、多数の地域の方々と交流しながら学ぶことができた。高等部では就労サポーター（2回）、陶芸の外部講師（1回）による授業を実践した。 今後、宝立芸能祭での「よさこいソーラン」の発表や奥能登芸術祭の見学等で地域とのつながりを深めたい。最終評価ではA評価を目指す。	C
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人との交流を深め、地域の文化に触れさせる取り組みは児童生徒のコミュニケーション能力の向上に繋がる。 				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも引き続き、地域との交流を深める。 				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
3 地域関係機関とのネットワークの構築によるセンター的機能の向上	① 地域の関係機関や外部専門家と連携し、特別支援教育に対する校内外のニーズに応じた支援を行う。	キャリア支援課 自立支援	改善のための実践を行った教員の割合が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満		9月末現在で、外部専門家として珠洲病院リハに4回・県リハに1回、来校してもらい指導、助言をいただいた。8月には地域の特別支援学級担任の教員も参加して研修会を持った。それぞれ指導助言を受けたことに基づいて改善のための取り組みをしている。11月から2回目が始まるので、実践の様子をまとめているところである。	
学校関係者評価委員会の評価		・				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策						

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果・課題）及び後期の扱い（改善策等）	中間評価
4 安心・安全な学校づくりの推進	① 職員の「安心・安全」に関する意識を高めるため、防災に関する情報を「防災だより」を通じて発信する。	生活支援課	提供された安心・安全に関する情報が役立ったと判断する職員の割合が A：90%以上 B：80%～90%未満 C：70%～80%未満 D：70%未満	提供された安心・安全に関する情報が役立ったと判断する職員の割合が93%であった。	防災だよりを1号発信した。「まあまあ役立つ（70%）」から「役立つ（23%）」の回答が増えるために、より安心・安全の意識が高まるよう、学校の実態に合わせた具体的な情報の伝え方にする必要がある。また、訓練等の実施方法についても、生徒の実情に合わせ、より具体的な実施方法になるように改善したい。	A
	② Webページで学習活動の様子や学校からのお知らせを積極的に発信する。日々の行事だけでなく、進路に関するページなど、保護者や地域の方に有益と思われる内容を吟味し、公開する。	総務課	Webページのアクセス数が年間で A：25000件以上 B：20000件以上25000件未満 C：15000件以上20000件未満 D：10000件以上15000件未満	Webページのアクセス数が9月末現在で17,476件であった。	4月は月間で1,700件ほどのアクセス数であったが、6月以降、月間3,000件を超えるアクセスが続いている。学校での活動や、お知らせをこまめに更新し続けていることで、定期的に関覧してくれるユーザーが増えたのではないかと考えられる。後期もこまめな更新を心掛け、学校から積極的に情報を発信していきたい。日々の学習以外の内容については、担当者と協議しながら十分に吟味したい。	
学校関係者評価委員会の評価		・ 防災だよりの発行は1号と少ないが、地域住民と連携した避難所体験訓練は今後も継続され、住民に児童生徒の特性を理解してもらう場として大切にして頂きたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		・ 訓練に合わせて防災だよりを発行する。 ・ 検索訓練等については児童生徒に実態に合わせて随時訓練マニュアルを見直す。				